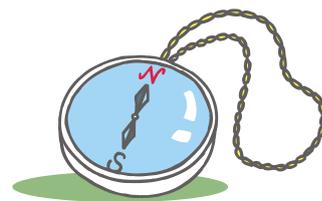


# 羅 針 盤

第 10 号 令和4年（2022年）6月13日（月）



## ◆ 沖縄復帰50年

沖縄が本土に復帰して50年という節目となる今年は、記念式典を始めとする数多くのイベントが全国各地で催されています。そのような中で、先月の5月15日に発行された琉球新報の特別号に、大きな反響を呼ぶ記事が掲載されました。特別号は、50年前の1972年5月15日に発行された琉球新報の1面記事を復刻した形となっていて、50年前と同じ見出しである「変わらぬ基地 続く苦悩」とされており、現在も変わらない沖縄の基地負担の問題を提起する形式となっています。発行後には、県内外から「なぜこのような見出しを付けたか」あるいは「紙面にどのような思いを込めたのか」などの取材や問い合わせが数多くあったそうです。沖縄県が『本土復帰50周年』を迎えた先月の5月15日には、沖縄の本土復帰50周年という歴史的節目の年を記念するとともに、沖縄の一層の発展を祈念し、これまでの沖縄発展のあゆみや将来の可能性を発信する機会として、国と県が共催して「沖縄復帰50周年記念式典」が、沖縄県宜野湾（ぎのわん）市にある沖縄コンベンションセンターで開催されました。この記念式典について、琉球新報の編集局内では、「基地の過重負担が残る中、祝賀ムード一色になってはならない」という声が、たくさんあがったようです。その思いを多くの人たちに伝えるべきと考え、インパクトのある紙面づくりとなるために、50年前と変わらない現状を強いメッセージとして発信することを旨として、今回の見出しとなった紙面がつくられたそうです。復帰から半世紀たった今も、沖縄県民が繰り返し基地の整理縮小問題や辺野古新基地建設問題などに苦悩する姿を、県外の人たちにも理解をしてほしいといった思いが込められているそうです。沖縄の人々にとっては、県民の4人に1人が犠牲となった沖縄戦の経験が根底にあり、「復帰」当時、「基地のない平和な島」を求め、平和な国への「復帰」を望んでいました。私たちにとっても、平和な世界を望む気持ちは同じであり、「戦争は最大の人権侵害である」という思いを持って、本土復帰50年を迎えた沖縄についての更なる学習を深めていく年とする必要があるのではないのでしょうか。他にも、インターネットのwebサイトでは、沖縄が復帰してから今日までの歴史を振り返り、先人たちの労苦と知恵に学び、沖縄の自然や文化等の魅力について県民と共有でき、そして、産業等の新たな展望や大型プロジェクト等の情報が広く発信されていて、沖縄県の発展と住民自身の豊かさを実感できる社会を実現することをねらいとした『沖縄復帰50周年特設サイト』も設けられています。沖縄の歴史を知り、今を知ることはとても大事なことだと思います。また、『おきなわ物語』というwebサイトでも、本土復帰からこれまでのあゆみが紹介されています。インタビュー記事もたくさん掲載されており、「復帰っ子から見た沖縄」というコーナー（沖縄が日本に復帰した1972年生まれの人たちを「復帰っ子」と言うそうです）では、お笑い芸人ガレッジセールの川田広樹さんが、インタビューの中で、沖縄には辛い過去がたくさんあったけれど、沖縄に住む人たちは「ひやみかち（沖縄の方言で「えい！と気合を入れる」こと）の精神」で数多くの困難を乗り越えてきた、そして、ご先祖様や先輩方がつくってきた歴史を知ること、沖縄の良さを知ることができるはずだと話されています。皆さんも、閲覧してみて理解を深める機会を設けてみてはいかがでしょうか。

